

## マーケット概況（2025年4月）

4月の債券相場は、3月日銀短観が景況感の底堅さを示す内容となり売りが先行し、10年377回債は1.505%で取引を開始した。2日に米国が発表した相互関税政策における関税率が想定を上回ると世界的な景気減速懸念から大幅な株安債券高となった。7日にかけてリスクオフが進展し、日経平均株価は一時3万7百円台まで急落し、新発10年378回債の利回りは一時1.105%まで急低下した。関税政策への過度な懸念が和らぐなか、8日の30年債入札が非常に弱い結果になると超長期債は利回り上昇に転じ、相場は上値を抑えられた。10日に米国が一部相互関税の90日間停止を表明し急落する場面もあったが国内の早期利上げ観測の後退により中期債は底堅く推移した。一方、リスク許容度の低下から超長期債は売られ、40年17回債は一時3.220%と発行以来の最高水準まで利回りが上昇した。しかし、15日の20年債入札を順調に通過すると超長期債の利回り上昇に歯止めがかかり、相場は徐々に落ち着きを取り戻した。金融政策決定会合を控え様子見姿勢が強まるなか、FRBの独立性への懸念を背景とした米国債安や市場予想を上回る4月東京都区部CPIを受け売り優勢となる場面もあったが、月末にかけてはレンジ内の取引となった。結局、イールドカーブは中長期債から30年・40年債にかけ前月末比で大幅にツイストステープし、10年378回債の1.310%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

4月の短国市場は、4日の3MTDB1297回債入札の結果が最高落札利回り0.3974%となり3月末と同水準で始まった。米国の関税政策問題が浮上したことで追加利上げの思惑が後退したことにより3Mゾーンで0.320%、1Yゾーンで0.480%が出合うなど大幅に金利低下し、9日の6MTDB1298回債は0.4237%、11日の3MTDB1299回債は0.3572%と共にしっかりだった。その後、米国の関税政策問題に落ち着きが見え、17日の1YTDB1300回債では0.5454%と金利上昇し、18日の3MTDB1301回債では入札日が海外休場日等の要因が重なったことで応札額が減少、入札結果が0.4329%と2008年以来の水準まで金利上昇したものの、25日の3MTDB1302回債では応札額が回復し、月初と同水準である0.3974%で着地して月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

4月の定例地方債は、大幅にワイドニングし、5年債が前月比5bpワイド化の国債カーブ対比+14bpとなり、10年債が前月比6bpワイド化の国債カーブ対比+15bpの条件決定となった。10年政保債は前月比6bpワイド化の国債カーブ対比+13bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。4月の払込日ベースの事業会社債の発行額は1兆1,184億円(38銘柄)の起債となった。トランプ関税による市場の混乱により、起債中止や減額を行う発行体が相次ぎ、前年比で約34%減と低調な発行状況となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#378	1.405(3日)	1.105(7日)	1.405(3日)	1.310(30日)
#377	1.505(1日)	1.085(7日)	1.505(1日)	1.285(30日)
#367	1.270(1日)	0.905(4日)	1.275(1日)	1.015(30日)
#177-#178(5Y)	1.110(1日)	0.725(7日)	1.110(1日)	0.880(30日)
#191-#192(20Y)	2.235(1日)	1.880(7日)	2.440(14日)	2.195(30日)
#1291-#1298 TDB(6M)	0.400(4日)	0.380(4日)	0.430(9日)	0.405(24日)
#1296-#1302 TDB(3M)	0.390(4日)	0.320(14日)	0.392(21日)	0.375(25日)